

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和02年02月04日

計画の名称	神戸都心三宮地区における魅力的でにぎわいのあるまちづくり												
計画の期間	平成29年度 ~ 平成30年度 (2年間)								重点配分対象の該当				
交付対象	神戸市												
計画の目標	神戸市の玄関口である都心三宮地区において、市民や来街者が自由に集い・憩える滞留空間等の創出や、誰にでも分かりやすい交通結節点としての機能強化による利便性の向上、災害に強い市街地の形成を図り、魅力的でにぎわいのあるまちづくりをめざす。												
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	80	A	80	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標(定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (H29当初)	中間目標値 (H29末)	最終目標値 (H30末)
1	・雲井通5・6丁目地区において、市街地再開発事業等による大街区化をめざし、計画素案の作成や地域勉強会支援を行うことで事業への参加意向率を高め、事業の実現性を向上させる。 雲井通5・6丁目地区において、個別意向調査に基づき、土地建物所有者に係る事業への参加意向率を把握する。	0%	70%	100%
2	・三宮町1・2丁目地区において、街区の再編による大街区化等の検討を行い、地区の将来像をまとめた地区再生計画として取りまとめる。そして、その計画について地元組織等との共存を図り、事業化の機運を高める。 三宮町1・2丁目地区において、地区再生計画を有する商店街振興組合等の団体の割合を調査する。	0%	50%	100%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	地域再生計画を含む
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	-----------

A 基幹事業																			
基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H29	H30	H31	R02	R03			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
市街地整備事業	A13-001	市街地	一般	神戸市	直接	神戸市	-	-	雲井通5・6丁目地区都市 再開発支援事業	都市再開発支援 A=2.4ha	神戸市					41	-		
	A13-002	市街地	一般	神戸市	直接	神戸市	-	-	三宮町1・2丁目地区都市 再開発支援事業	都市再開発支援 A=8.4ha	神戸市					39	-		
											小計					80			
										合計					80				

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
<ul style="list-style-type: none"> <li>・都心三宮再整備推進会議、及び三宮再整備経済効果検討委員会 委員（学識経験者・経済）</li> </ul>	令和2年1月29日
	公表の方法
	神戸市ホームページに記載
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たなバスターミナルと対象エリアの再整備の事業化に向けた基本的事項についてまとめた、「新たな中・長距離バスターミナルの整備に向けた雲井通5・6丁目 再整備基本計画」を策定した。</li> <li>・雲井通5丁目の再整備の事業化に向け、雲井通5丁目地権者全員の出資のもと「雲井通5丁目再開発株式会社」を設立した。</li> </ul>
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	
特記事項（今後の方針等）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・雲井通5丁目については、設立した再開発会社を中心に再開発事業を推進していき、雲井通6丁目については、引き続き地権者への情報共有および事業の機運醸成を図りながら、再開発事業の施行主体の組成を目指し、新たなバスターミナル整備における 期事業、 期事業、 期以降の連続的な整備に向けて取り組んでいく。</li> <li>・令和元年度に入って、再整備に向けた地権者等による勉強会が始まっており、これらの動きに合わせて、地区の将来像となる地区再生計画の周知・共有を図り、事業化に向けて取り組んでいく。</li> </ul>	

目標値の達成状況		
番号	指標（略称）	
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因
1	指標（土地建物所有者の事業への参加意向率）	
	最終目標値	100%
	最終実績値	100%
2	指標（地区再生計画を共有する団体の割合）	
	最終目標値	100%
	最終実績値	50%
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・都心三宮の再整備においては、継続的に地元組織等と計画や事業の進捗状況等の共有をはかり、協働で取り組みを進めている。</li> <li>・地区再生計画の共有に向けた取組みとして、地元組織等に対してヒアリングする中で、地元組織等からは、再整備に向け地区の将来像を自ら検討する必要性や、検討にあたり市の技術的な支援を求める意見が出された。</li> <li>・そのため、地区再生計画については、これらの地元組織等の動きと足並みをそろえ、地元組織等による再整備に向けた勉強会や調査等に合わせ、地区再計画案を一斉に提示し、周知・共有を図ることとした。</li> </ul>